

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会(第26回) 議事録

1 開催日時及び場所

令和7年11月17日(月) 13:00～14:26

2 場所

Web 会議による開催

3 出席者(敬称略)

(1)委員等

部会長: 伊丹 誠(委員)

部会長代理: 丹 康雄(委員)

委員: 江崎 浩、加藤 寧

専門委員: 和泉 恭子、伊藤 寿浩、岩田 秀行、小川 栄治、古賀 正章、佐古 和恵、
西岡 誠治、坂本 信樹、安井 元昭、山本 浩司、本堂 恵利子、山田 徹、
山田 渉、河野 宇博、新 博行、西田 幸博

(2)総務省

布施田 英生(国際戦略局長)、柴山 佳徳(審議官)、加藤 義行(国際周波数政策室)

(3)事務局

古川 易史(通信規格課長)、西野 寿律(通信規格課国際情報分析官)、他

4 議題

- (1) ITU-T における各SGの活動状況
- (2) ITU-Rにおける各SGの活動状況
- (3) 「ITU 部会における委員会の設置及び運営について」の改正について
- (4) その他

開 会

○伊丹部会長 それでは、皆様、定刻となりましたので、これより情報通信審議会情報通信技術分科会ITU部会第26回会合を開催させていただきます。

私は、ITU部会長を仰せつかりました東京理科大学の伊丹でございます。よろしくお願いいたします。本日は皆様、御多用のところ御出席いただきまして、ありがとうございます。

本日、委員4名の方が出席しておりますので、定足数を満たしております。また、21名の構成員のうち、今井委員、上村専門委員、熊田専門委員、高嶋専門委員、武田専門委員、永沼専門委員の6名が御欠席となっております。

また、本日は、本部会の構成員のほか、ITU-T及びITU-Rの有識者の方々にも御出席いただいておりますので、御紹介いたします。

まず、ITU部会傘下の委員会の専門委員の方です。本堂専門委員、山田徹専門委員、山田渉専門委員、河野専門委員、新専門委員、西田専門委員の以上6名の方に御出席いただいております。

次に、オブザーバーとして御出席いただいている方です。ITU-Tについて、SG2からNTT-ATの荒木様、SG5からNTTの原様、SG12からNTTの山岸様、SG15からNTTの村上様、SG17からKDDIの磯原様、SG21からKDDIの河村様、ITU-Rについて、SG4からKDDIの河合様、SG5からKDDIの今田様、ソフトバンクの吉野様、NTTの大槻様、SG6からNHKの大出様、SG7からスカパーJSATの三留様、以上の12名に御出席いただいております。

開始に先立ちまして、総務省国際戦略局布施田局長から一言御挨拶をお願いいたします。

○布施田局長 布施田でございます。皆様、御苦労さまでございます。本日は御多用の中、ITU部会に御参加いただき、誠にありがとうございます。また、伊丹部会長をはじめ、皆様には平素より情報通信行政に御支援いただきまして、厚く御礼申し上げます。

この会合を昨年12月に開催していただきまして、そのときは昨年10月にインドで開催されたWTS A-24の結果の御報告をさせていただきました。そのWTS Aの総会に向けた対処方針の作成に当たりましては、皆様方から御協力、御指導いただきまし

て感謝申し上げます。

そのW T S Aの結果を受けて、今年の1月からI T U－T では新しい研究会期が開始されたところをござしまして、本日の部会ではI T U－T の各研究委員会から最近の活動状況を報告させていただきます。

I T U－T に関しましては、皆様御承知のとおり、現在、I T U電気通信標準化局長を尾上誠蔵さんに務めていただいております。尾上さんには、日本政府として再び2027年から第2期に向けた再選を目指しているところをござします。国際標準化機関の中でも情報通信関係で非常に重要なポストだと、政府全体の中でもよく話題になるところをござしますので、尾上誠蔵標準化局長の活動もしっかり支えていきたいと思っていますところをござします。

また、本日はI T U部会でござしますので、I T U－Rの活動状況につきましても御報告させていただきます。本日は、皆様から忌憚のない御意見を頂戴いたしまして、有意義な議論が行われることを期待してござします。

簡単ではござしますが、私からの挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○伊丹部会長 ありがとうございました。

さて、本日の会議ですが、ウェブ会議となりますので、御発言の際は挙手機能を御使用いただき、お名前をお呼びしたら御発言をお願いいたします。

それではまず、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

○伊藤係長 事務局でござします。資料につきましては、事前にメールでお送りしております議事次第のほかに、資料26－1 情報通信審議会情報通信技術分科会I T U部会名簿、資料26－2 I T U－T における各S Gの活動状況、資料26－3 I T U－Rにおける各S Gの活動状況、資料26－4 「I T U部会における委員会の設置及び運営について」の改正について、資料26－5 国際電気通信連合（I T U）電気通信標準化局長選挙への立候補、資料26－6 I T U部会傘下の委員会の開催概要の6点となっております。御確認ください。

○伊丹部会長 ありがとうございました。

議事に先立ちまして、部会長代理の指名をしたいと存じます。部会長代理につきましては、情報通信審議会令第6条第5項の規定により、部会長である私から指名することとなっております。

私としましては、これまでもITU部会及び電気通信システム委員会において審議に携われており、深い御見識をお持ちの北陸先端科学技術大学院大学の丹委員にお願いしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

どうぞ、一言御挨拶をお願いいたします。

○丹部会長代理　ただいま御指名いただきました北陸先端大の丹と申します。私自身は、ITU-Tを中心に前世紀末ぐらいからいろいろとお世話になっておりましたが、近年は電気通信システム委員会で多くの皆様のお世話になっております。今回御指名いただきましたので、こちらでも精いっぱいやらせていただければと思います。では、よろしくお願いいたします。

○伊丹部会長　ありがとうございました。

議　事

(1) ITU-Tにおける各SGの活動状況

○伊丹部会長　それでは、議事に入ります。

最初の議事は、(1) ITU-Tにおける各SGの活動状況です。資料はSGごとに作成されておりますので、SGごとに事務局から説明をいただき、SGの有識者から2分程度補足コメントをいただきます。全てのSGが終わりましたら、質疑の時間とさせていただきます。

それでは、SG2からお願いいたします。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T SG2について説明)

荒木様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○荒木様　NTT-AT、荒木です。補足させていただきます。

ITU-T、SG2は、電気通信番号のネーミングやアドレス、識別子を管理しているスタディーグループとなります。最近の会合としましては、2025年9月に全体会合が開催されました。今回は、報告にありましたように、E.164という国番号などを規定するSG2の主要な勧告の改訂となります。ここでは、カンントリーコードに関する3つの新規カテゴリーとして、IoTとかグローバルサービス、それから衛星通信サー

ビス、そういったカテゴリーが追加されておりまして、これらはインマルサット等の衛星通信サービス等で既にシェアード・カンントリー・コードとして実際に割り振られているという現状に合わせて、それを補足する形でカテゴリーを新規追加する形となっております。

また、I o Tのサービスに関しましては、前回のWTSA-24で決議2が改訂されまして、これらがSG2の主要範囲となりましたので、今回新たにI o Tサービスに関する新規勧告E.192というものを設定しまして、運用ガイドラインについてこちらで一つの勧告にまとめているということで、I o Tサービスに対する番号管理の勧告の作業が進められております。

私からは以上となります。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T SG3について説明)

本堂様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○本堂様 ありがとうございます。KDDI、本堂です。

こちらに書いていただきました内容は、2025年4月のSGの内容になります。直近の会合として下線が引いてある11月の会議は3日から7日で、ラポーター会合とプレナリーというものを実施しました。全体的に進捗としましては、2番の①にアメリカの対応のところを記載していただいておりますけれども、日本としては、アメリカが意見を同じくする、声を大きくするのに仲よくしておきたい国であるところ、トランプ政権ですとか、最近のシャットダウン等の影響で、対応のほうが少し薄くなっていくのではないかという懸念を持っているところです。その辺りは、担当のアメリカから来る方と引き続き連携をしていきたいと思っていますところです。

あと、②、③、④の議題というのは、大体いつも料金系を扱うSG3として進めているところになりまして、ほかの技術的SGとは少し違うところはあると思いますが、関係のセクター及びSGと連携して成果物を作っていきたいと思っています。

以上です。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T SG5について説明)

原様はもしかしたら今、入られていないかもしれないので、よろしければ次の議題に行かせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

では、こちらは事務局だけの説明といたします。

(資料26-2に基づきITU-T SG11について説明)

なお、現在、SG11がジュネーブで開催中であり、SG11関係者が現地で会合対応中であることから、関係者からのコメントはこちらでは割愛させていただきたいと思っています。

(資料26-2に基づきITU-T SG12について説明)

山岸様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山岸様 NTTの山岸です。よろしくお願いいたします。

今御説明いただきましたように、多くの項目に関しては、従前からありますような音声通話であったり、映像配信に関する標準化ということを行ってきていますけれども、②の一番最後のポチのところで書かれているように、自動運転向けの車載カメラを使った映像監視のようなものがこれからどんどん利用されてくるということもありまして、そこに対する映像品質はどのようにしていくかということが議論されてきておりまして、そこが勧告化されてきたというのが、SG12としては今までの通常の音声通話、映像配信に加えて増えてきたというところが一つ大きいところかと思います。

あともう一つは、中にも何個か出ていますように、他のSG同様に、AIを用いているものが増えてきているというところが一つ際立っているところだと思います。

以上になります。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T SG13について説明)

山本様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山本専門委員 NTTの山本です。SG13の活動について補足させていただきます。

まず、西野様からの御報告でも触れていただきましたけれども、IOWNオールフォトニクス・ネットワークを対象としたY. L2E2netについて、今年の10月27日からのSG13の会合で議論になりました。その中で、総務省様のほうに主導していただく形で、承認プロセスを今までのこちらの勧告草案なのですが、TAP、トラディショナルな承認プロセスになっていたところを、AAP、オルタナティブなプロセスに変えるという非常に大きな成果がありました。これは、総務省様を主体とした日本一丸となった活動の成果かなと思います。

まずそこは補足させていただきたかったところと、2つ目に、最後にA Iに触れていただきましたけれども、A IについてはS G 1 3には物すごくたくさんの方の提案が出てきておりまして、大きな動向といたしましては、そもそもA Iについては様々な言葉が出てきて、もうちょっと定義論というところからしっかり議論しないことにはという話も進んでおります。いろいろな勧告草案をイニシエーションする前に、どここのものをやっているのかというところをしっかりと議論になります。

最後に一つだけ、動向といたしまして、近年このS G 1 3ではインドのプレゼンスというのが非常に高まっております。先ほど御紹介させていただいた1 0月のウズベキスタンでの会合ですが、会合の参加者数でインドからの参加者数がナンバー2に、寄書数でもナンバー3になって、徐々にインドのプレゼンスが高まってきているという感じが感じられております。

S G 1 3については以上となります。ありがとうございます。

○西野国際情報分析官 (資料2 6－2に基づきI T U－T S G 1 5について説明)

村上様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○村上様 N T Tの村上です。

まず、1 番目のアクセス系と設備系で言いますと、今御説明がありましたように、光アクセスのほうも5 0 Gや1 0 0 Gの高速化を目指して議論が継続しているということがあります。それから、ケーブルに関しては、日本勢が進めてきたマルチコア型光ファイバーという、今まで従来は光ファイバーというのはコアが1 本あるだけだったのですけれども、それを2つないし4つコアを入れて、容量を倍増、4 倍にしようというファイバーがあって、その技術開発を進めてきたものがようやく前回会合から勧告案作成作業を開始できたという状況です。

それから、インフラでいうと、これは土管とか架空ケーブルとか電柱とか、いろいろそういう話をやっているわけですが、アフリカを中心として途上国が通信インフラの設備共用、これはコストを下げるために共用したいということで、その勧告案を作っています。ただ、アフリカよりも中国とインドのほうが積極的に今関与しているという状況になっているところです。

伝送のコア、あとメトロエリアで言いますと、今はもう1 波長8 0 0 Gの波長多重システムというのが実用化になってきておりまして、この辺の議論もいろいろあったのですが、ほぼ収束して、勧告を改訂するところだということと、あとは今1 . 6 T級の超高

速伝送の話が始まっております。

伝送とはちょっと変わるのですけれども、光ファイバーを使ったセンシングとか、信号処理技術を応用した伝送路の状態推定、こういった少し通信とは違う話ですが、この辺の話もだんだんSG15で始めつつあるという状況にあります。

あとは、高精度の時刻・周波数同期の話で言うと、これはITU-TのSG15のほうではテレコム系のネットワークにおける時刻同期・周波数同期というものをずっと昔のSDH時代から続けていて、それを踏襲しているわけですが、IEEEのほうではエンタープライズ系の同期技術、イーサネットとか、そっちのほうをやっているのですが、そこら辺と協力しながら、データセンター向けの時刻同期技術を議論して、技術文書という形で完成しています。データセンターは誰が標準化をするのかということがはっきりしないところがありまして、課題13の高精度の時刻同期のほうでは、ある程度IEEEなどとうまく仲よくやりながら、お互いにすみ分けしてこういった活動をしているということです。

もう一つのテーマとしては、今のセシウム原子時計です。これは、国際基準で「秒」の定義が1960年か70年ぐらいにセシウム原子のマイクロ波遷移を使うと決まったわけですが、今、2030年をめどに国際度量衡委員会がこれを光学遷移に改定しようということで、光原子時計というものをその基準にしようとしている。そういった背景を受けて、これは日本勢もヨーロッパ、欧米も光原子時計の研究開発を進めているということもあって、これに関する技術文書から始めましょうという提案をして、これが今進んでいるということです。

アーキテクチャ・管理制御でも、中国がかなり積極的に提案してきたことで、次期2030 and beyondと言っていますけれども、その辺の将来の光伝送網を技術文書という形で作りたいということで、これがこの間10月に完成しました。ヨーロッパでも同様の活動はしているらしく、そういった寄書もヨーロッパからも出ています。内容としては、6Gとか、いわゆるIMT-2030で言っている統合的網運用とかセンシングとか、あるいはAIとかデータセンターとか、そういった動向をまとめたという程度の文書ではあります。

ネットワークとAIの関係で言えば、よく言われるNetworks for AIとかAI for Networksという話がありますが、AI for Networksという意味では、伝送網の管理制御の高度化にAIをどう適用するかといっ

たアーキテクチャの議論を継続しています。一方で、先ほど言いましたように、データセンターをつなぐための光伝送網です。データセンターが今言われているのは、消費電力的に、例えば発電所を1個置いても、もう1個のデータセンターでは賄い切れないという予測になっておりまして、どうしてもデータセンターを分散して、発電所も分散して配置して、その間を光伝送網につなぐという形態も今予想が必要になると言われているのですけれども、そのデータセンターと言っているのはほとんどがAIのためなので、いわゆるNetworks for AIと呼ばれていますけれども、そのデータセンターの標準化は誰がやるのかというのは、先ほども言いましたけれども、少しはつきりしないところがあって、ITU-Tでは中国勢を中心にデータセンター網の標準化をやりたいと言っているのですが、一方でIEEEなどもいますし、いろいろなデータセンター系のフォーラムもあるので、そことの関係をちゃんと整理せずにITU-Tが一方的に標準化を進めるというののもいがかかというところもあって、少しこの辺は今後見ていかなければいけないと感じています。

あとは、中国勢が最近衛星間の伝送とか衛星と地上との伝送に光を使うようになってきたので、前はマイクロ波かミリ波か電波を使っていたのですけれども、最近は光を使うようになったので、光伝送だからSG15だろうという言い方で衛星のほうにも手を出そうとしているので、これはさすがに周りが今止めているというか、整理してからという話になっていて、要するにどんどん範囲が拡大して行って、誰もいないところであればいいのですけれども、領海侵犯して行ってどこかとぶつかるようなことにならないように、そういう注意をしなければいけないなという感じではありますけれども、そういう形でSG15は活動しております。

以上です。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T SG17について説明)

磯原様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○磯原様 ありがとうございます。KDDIの磯原より補足コメントをさせていただきます。

まず、直近の会合につきまして、12月3日から11日まで次の会合が予定されております。現在、これに向けて、11月20日、今週を締切りに各国の寄書が提出されますので、提出された後、分析して対処方針を検討した上で、12月の会合に当たってま

います。

また、いただいた資料のその他の２つ目と３つ目のポチに関して補足させていただきますと、前回４月の会合から今回の１２月の会合までの間に、コレスポネンスグループという形で、電話会議で課題再編とかＳＧ１７の活動に関する議論が行われておりました。こちらは主にマネジメント関係の話となるのですが、作業項目が多く提案されているといった中で、特にＡＩセキュリティに関しては、現状、課題７というところで扱っているんですが、これを、ＡＩに関する課題を一部分離して、課題７を２つに分割する形で検討していくという案が今提案されておりまして、１２月の会合でその提案について承認が行われる予定となっております。

また、３つ目に書いていただいております課題３と１０の統合につきましては、１２月の会合でも日本とカナダが共同で寄書を提案しまして、今申し上げましたコレスポネンスグループの中で、日本からも課題３と１０を統合した後の課題テキストなどを提案しているのですが、それらの活動を支持するといった内容で対応を進めていくこととしております。

ＳＧ１７に関する補足は以上とさせていただきます。ありがとうございます。

○西野国際情報分析官

（資料２６－２に基づきＩＴＵ－Ｔ　ＳＧ２０について説明）

山田様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いします。

○山田様　　ＮＥＣの山田でございます。よろしくお願いします。

御説明ありがとうございました。ＳＧ２０は、今御説明がありましたとおり、スマートシティを標準化の対象としておりまして、一口にシティ、都市と言いましても様々な検討課題があるというところで、今回の直近の会合では、③で御説明がありましたとおり、都市の営みとしての農業に関する新規課題、新規クエスチョンが作られました。その前の１月の会合では、同じように都市における電力の管理、電力の問題も重要なポイントでして、新規課題、新規クエスチョンが作られました。昨年、ＷＴＳＡのところでは、ヘルスケアもしくは障害者向けアクセシビリティに関するクエスチョンが新設されてというところで、領域ごとにクエスチョンが毎回毎回新設されていくという状況に今なっております。

一方で、参加者からは、今後どんどん、クエスチョンの乱立といいますか、増えていくのではないかという懸念が示されました。これに対して議長からは、今研究会期２０

28年末までに關しては、もうこれ以上増やすことはなく、現行の体制で議論をしたいという旨が表明されております。

以上でございます。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T SG21について説明)

河村様、SG21に關してコメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○河村様 ありがとうございます。KDDI、河村です。3点補足させていただきます。

1点目ですけれども、旧SG9では、ケーブル事業者様が御利用になられているDOCSISというケーブルの規格、仕様がございします。こちらに關して、リエゾンの代表者が米国のケーブルラボから定期的にITU会合に参加し、最新の仕様をITU勧告に反映するといった連携が継続できております。

2点目につきまして、課題の再編です。先ほど少し言及がありましたけれども、主にSG9側の課題数を9個から5個ぐらいに減らすという検討がなされており、旧SG16の一部課題も巻き込んで、SG再編に続く課題再編という動きが継続しております。

最後に、メタバース関係です。先ほど言及がありましたように、FG-MVが成功裏のうちに完了しました。その後、この成果物を勧告化する観点で、JCA-MVというものがTSAGのほうで合意して設立されまして、JCA-MVの第1回会合をSG21会合と併催で開催しました。こちらは日本でも勧告化を牽引している状況です。

以上となります。

○西野国際情報分析官

(資料26-2に基づきITU-T TSAGについて説明)

岩田様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○岩田専門委員 岩田です。永沼さんに代わり、コメントします。

5月に第1回の会合が開催されまして、新しい会議体制が決定されております。ワーキングパーティーは前期と同じ2つの体制になりましたが、構成とマネジメントが変更されました。ワーキングパーティー1ではワークメソッドと産業界の連携や戦略計画を行うRGを担当、ワーキングパーティー2ではワークプログラムと今期から新設されましたセマティックレビューと称するサステナブルDX関連を扱うことになっています。

また、皆様の関心があると思いますが、再編、リストラクチャに関しての議論は、永沼さんが関連するラポーターを継続することで、そこで議論されることになっています。

次回会合が来年1月ですけれども、A I 活動指針に関する議論が行われる見込みで、内容次第でワーキングパーティー1の I n d u s t r y E n g a g e m e n t またはWPRのほうで審議される可能性があるということです。

以上です。

○西野国際情報分析官 資料26-2の説明に関しては以上でございます。

伊丹部会長、ありがとうございます。

○伊丹部会長 ありがとうございました。

それでは、I T U - T の S G 活動状況全体につきまして、御意見や御質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。

(2) I T U - R における各 S G の活動状況

○伊丹部会長 それでは、次の議事であります(2) I T U - R における各 S G の活動状況につきまして、総務省総合通信基盤局電波部電波政策課国際周波数政策室加藤室長より御説明をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○加藤国際周波数政策室長

(資料26-3に基づき、I T U - R の活動状況について説明)

○伊丹部会長 ありがとうございました。

それでは、I T U - R の S G 活動状況全体につきまして、御意見や御質問等はございますでしょうか。

西野様、よろしくをお願いいたします。

○西野国際情報分析官 部会長、ありがとうございます。事務局の西野でございます。

I T U - R ではないのですが、もしもよろしければ、この時間を使って、先ほどの I T U - T の資料26-2のときに、S G 5 のところで N T T の原様の御説明をスキップしてしまいましたが、今入られたようですので、お時間があればここでコメントをいただくような形でよろしいでしょうか。

○伊丹部会長 はい、結構でございます。

○西野国際情報分析官 ありがとうございます。そうしたら、資料２６－２の５ページをお願いできますでしょうか。先ほどこちらで、ＳＧ５の概要をこちらの主な議論として、過電圧、ＥＭＣ、ＥＭＦ関連、そして気候変動対策、循環型経済関連で概要を御説明しましたが、ＮＴＴの原様、こちらでコメントがございましたらお願いできますでしょうか。

○原様 ＮＴＴの原です。ありがとうございます。既に補足いただいているかもしれませんが、一番下の項目にありますＮＥＣからの新規勧告案、シングルペアケーブルを使った資源節減の充電システム方法につきましては、今回行われましたＳＧ５会合で合意されております。また、ＡＩの環境影響評価手法に関する新規勧告案１件が合意されております。また、ＡＩに関しては、同様の実装した場合の環境影響評価方法、それからエネルギーに関するスコアリングの新規勧告案が合意されております。

以上でございます。

○西野国際情報分析官 原様、ありがとうございます。

部会長、私からは以上でございます。ありがとうございます。

○伊丹部会長 ありがとうございました。ただいまの御説明に関しましても含めて、御質問、御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。

(３)「ＩＴＵ部会における委員会の設置及び運営について」の改正について

○伊丹部会長 それでは、次の議事であります「ＩＴＵ部会における委員会の設置及び運営について」の改正について、事務局より御説明をお願いいたします。

○伊藤係長 (資料２６－４に基づき、事務局より説明)

○伊丹部会長 ありがとうございました。

ただいまの御説明に関しまして、御質問等がございましたらよろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

特に御異議がないようでしたら、案のとおり「ＩＴＵ部会における委員会の設置及び運営について」を改正したいと存じますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○伊丹部会長 ありがとうございます。

それでは、本日 11 月 17 日付にて「ITU 部会における委員会の設置及び運営について」を改正いたします。

(4) その他

○伊丹部会長 最後に、議題 (4) その他です。

国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長選挙への立候補について、事務局より説明をお願いいたします。

○西野国際情報分析官 (資料 26-5 に基づき説明)

○伊丹部会長 ありがとうございました。

ただいまの説明について、御質問等ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございました。

次に、ITU 部会傘下の委員会の開催概要について、事務局より御説明をお願いいたします。

○伊藤官 (資料 26-6 に基づき説明)

○伊丹部会長 ありがとうございました。

ただいまの御説明につきまして、御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、本日予定されております議題は本件のみとなりますが、他に皆様から何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ございませんようでしたら、以上をもちまして本日の議事は全て終了となります。

最後に、今後の予定等につきまして、事務局よりお願いいたします。

○伊藤係長 事務局でございます。次回の ITU 部会につきましては、開催日程を部会長と調整の上、別途事務局より御案内いたします。よろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

閉 会

○伊丹部会長 ありがとうございました。

それでは、これで I T U 部会第 2 6 回会合を閉会いたします。本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。